

腎・膀胱・前立腺がんセンター

腎臓がん、膀胱がん、前立腺がんに対する、質の高い臓器温存療法の開発に注力しています。
低侵襲な治療、最大限の機能温存（腎機能、膀胱機能、前立腺機能）、早期退院を図っています。



診療科
ホームページ
QRコード

外来日(初診)	月	火	水	木	金
午前	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	○	○



得意とする疾患と担当医師

●正確な腎臓がんの診断：

小さな腎腫瘍では腎がんの診断で手術を行った際、病理検査で良性腫瘍であることがまれではありません。画像診断の精緻な解析、腎腫瘍生検により、術前診断の精度向上に努めています。

腎臓がん

●ロボット支援腹腔鏡下(ダビンチ)腎部分切除

●腎血流非遮断・ミニマム創内視鏡下腎部分切除：

腎機能保持を目的とし、腎血流を保ったまま行う低侵襲手術です。
2つの低侵襲手術から患者様に適した手術法を選択しております。

●ロボット支援腹腔鏡下(ダビンチ)根治的腎摘除

膀胱がん

●筋層浸潤性膀胱がんに対する膀胱部分切除を組み込んだ四者併用膀胱温存療法(経尿道的膀胱腫瘍切除+放射線治療+化学療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除)：

筋層浸潤性膀胱がんの根治と機能的膀胱温存を両立させる集学的治療として、1990年代末より、開発・実践してきました。ご高齢の方、合併症のある方へも施行可能で、治療後の筋層浸潤がんの再発は低く、排尿機能のみならず、性機能、腎機能も良好に保たれています。

●筋層浸潤性膀胱がんに対するロボット支援腹腔鏡下(ダビンチ)根治的膀胱全摘除

●がんの診断と状態をより正確に評価可能とするMRI-超音波弾性融合ガイド下前立腺生検：

生検を行う際にMRIでがんの疑われる部位を、超音波画像上に重ね合わせて表示させ穿刺ガイドを行う技術です。

前立腺がん

●ロボット支援腹腔鏡下(ダビンチ)前立腺全摘除

●ミニマム創内視鏡下前立腺全摘除

●前立腺全機能温存治療としての小線源部分治療：

がん治療と機能温存の両立を目指した治療法。MRIと生検情報をもとに治療が必要な部分を決定し、その部分を選択的に治療します。

●尿失禁に対する人工尿道括約筋手術(早稲田 悠馬)

担当医師/上記共通：医師指定がない治療は下記いずれの医師もベストな対応をいたします。

藤井 靖久、吉田 宗一郎、田中 一、早稲田 悠馬、福田 翔平、福島 啓司、石川 雄大、小林 正貴、松本 峻弥



特色・診療内容

泌尿器科臨床の多くで世界トップレベルの医療を提供できる診療体制をとっています。全ての泌尿器がんおよび副腎腫瘍を対象として、世界標準の低侵襲手術であるロボット支援手術、または当科で開発したミニマム創内視鏡下手術を施行しています。浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの小線源部分治療を開発し施行しています。



お願い

ご紹介の際には、「腎・膀胱・前立腺がんセンター」宛てに紹介状を記載していただくと予約がスムーズです。よろしくお願いいたします。